

病害虫発生予報 第6号

(向こう1ヶ月間の発生予報)

1 総括表

| 作物名 | 病害虫名 | 地域 | 発生量(平年比) | 発生時期 | 備考 |
|-----|-------------|-----|----------|-------|----|
| 水 稲 | 穂いもち | 全域 | 並 | 並 | |
| | 紋枯病 | 全域 | 並～やや少 | 並～やや遅 | |
| | 白葉枯病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | ツマグロヨコバイ | 全域 | やや多 | 並 | |
| | セジロウンカ | 全域 | 並～やや少 | 並 | |
| | カメムシ類(斑点米) | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| 大 豆 | 子実害虫類 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| りんご | 斑点落葉病 | 全域 | 並 | | |
| | すす点病・すす斑病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | 褐斑病 | 全域 | 並 | | |
| | 腐らん病 | 全域 | 並 | | |
| | ハダニ類 | 全域 | 並～やや多 | | |
| | リンゴコカクモンハマキ | 全域 | 並 | 並 | |
| | キンモンホソガ | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| | スモモヒメシンクイ | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| な し | 黒斑病 | 全域 | 並 | | |
| | うどんこ病 | 全域 | 並 | | |
| | リンゴコカクモンハマキ | 全域 | 並 | 並 | |
| | シンクイムシ類 | 全域 | やや多 | 並～やや遅 | |
| | クワコナカイガラムシ | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| | カメムシ類 | 中南信 | 並 | 並 | |
| も も | せん孔細菌病 | 全域 | 多い | | |

| | | | | | |
|---------|---------|----|-------|---|--|
| も も | コスカシバ | 全域 | 並 | 並 | |
| ぶどう | べと病 | 全域 | 並～やや多 | | |
| レタス | 菌核病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| | 灰色かび病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | すそ枯病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| | 斑点細菌病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| | 腐敗病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| | 軟腐病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| | べと病 | 全域 | 並 | 並 | |
| アブラナ科野菜 | 軟腐病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| | べと病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | 黒斑細菌病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| はくさい | 白斑病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | 黒斑病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| | 黄化病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | モザイク病 | 全域 | 並 | 並 | |
| キャベツ | 菌核病・株腐病 | 全域 | 並 | 並 | |
| アスパラガス | 茎枯病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| | 斑点病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| アブラナ科野菜 | コナガ | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| | ウワバ類 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| 野菜・花き | ハモグリバエ類 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| | オオタバコガ | 全域 | 並 | 並 | |
| | アブラムシ類 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| | アザミウマ類 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| | ハダニ類 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |

II 向こう1か月の気象予報(長野気象台 9月12日発表)

1 予想される向こう1ヶ月の天候(9月14日～10月13日)

天気は周期的に変わるとでしょう。平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。平均気温は高い確率50%です。

2 向こう1ヶ月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

| | 低い(少ない) | 平年並 | 高い(多い) |
|------|---------|-----|--------|
| 気温 | 20 | 30 | 50 |
| 降水量 | 30 | 40 | 30 |
| 日照時間 | 30 | 40 | 30 |

Ⅲ 水 稲

1 穂いもち

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 8月上旬の巡回調査における穂いもちの発生は、平年に比べて少なく、上位葉の発病も少なかった。
 - 9月上旬の巡回調査では、一部のほ場で穂いもちが散見された。
- (3) 防除上の留意点
- 穂いもちが発生しているほ場からは自家採種を行わない。

2 紋 枯 病

- (1) 予報の内容 発生量：並～やや少 発生時期：平年並～やや遅
- (2) 予報の根拠
- 8月下旬の巡回調査では、全般に平年に比べて少発生であった。
 - 9月に入り、発生が増加しているほ場が見られる。また、地域によっては上位葉鞘へ進展しているほ場が見られる。

3 白葉枯病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 8月の巡回調査では発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
- 常習発生地では、発生に注意する。
 - 高温、多湿、浸冠水、台風が発生を助長する。

4 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報の内容 発生量：やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 8月の巡回調査では、全般に発生が多く、一部に多発ほ場が見られる。
- (3) 防除上の留意点
- 収穫期と農薬の使用時期に留意する。

5 セジロウンカ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや少 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 8月の巡回調査では、全般に平年に比べて少発生であったが、一部の地域で、幼虫の発生が多いほ場が見られる。

県防除基準；長野県農作物病害虫・雑草防除基準
農薬はラベルをよく読み適正使用に努めましょう。

- (3) 防除上の留意点
- 収穫期と農薬の使用時期に留意する。

6 斑点米カメムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 8月のすくい取り調査(本田ネット20回振)では、全般に平年に比べて捕獲頭数がやや多かった。
 - 予察灯による調査でも、8月以降も引き続き平年に比べて誘殺頭数が多い地点が見られる。
- (3) 防除上の留意点
- 収穫期と農薬の使用時期に留意する。

Ⅳ 大 豆

1 子実害虫類(マメシクイガ、シロイチモジマダラメイガ、カメムシ類)

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 前年の発生は平年並であったが、カメムシ類の発生が多かった地域もあり、地域によってはやや多いと予想される。
 - これまでのところ、気温は平年に比べて高めに推移しており、子実害虫類の活動も活発であると推察される。
- (3) 防除上の留意点
- 防除適期は子実肥大初期であるが、発生が多い場合は7～10日間隔で追加防除する。なお、9月の気温が高めで推移すると、収穫期間近まで被害が発生する場合がありますので、必要に応じて9月下旬頃まで防除を行う。
 - 吸実性カメムシ類の生息密度は、畑の外縁部ほど高い傾向があるので、外縁部への散布は丁寧に行う。
 - マメシクイガは移動性が低く、前年に発生が多かった連作畑では被害が発生しやすいので注意する。
 - 収穫期が近いので、農薬の使用時期に留意する。

Ⅴ りんご

1 斑点落葉病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- 9月上旬までの巡回調査では、ほとんど発生はみられていない。
- (3) 防除場の留意点
- 県防除基準に従って薬剤を選択し散布する。

2 すず点病・すず斑病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠

- ① 9月上旬までの巡回調査では、ほとんど発生はみられていない。
- ② 気象要因(+) 向こう1ヶ月の気象では、降水量は平年と同様に多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 降雨が多い場合は9月下旬まで防除する。

3 褐斑病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並

- (2) 予報の根拠

- ① 9月上旬までの巡回調査では、防除の死角を中心に発生がみられたが発生量は平年並であった。

- (3) 防除上の留意点

- ① 県防除基準に従って薬剤を選択し予防散布を行う。

4 腐らん病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並

- (2) 予報の根拠

- ① これまでの発生量は平年並みに推移した。

- (3) 防除上の留意点

- ① 園内を点検して被害枝を除去する。病患部は完全に削り取り塗布剤を処理する。
- ② 初冬期に県防除基準に従って薬剤を散布する。

5 ハダニ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多

- (2) 予報の根拠

- ① 9月上旬までの巡回調査で、発生が多い園がみられる。

- (3) 防除上の留意点

- ① 今後も発生が懸念される園では、発生量の把握に努め、多い場合には速やかに殺ダニ剤を散布する。

6 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

- (2) 予報の根拠

- ① 9月上旬までの巡回調査では、幼虫による被害新梢はみられなかった。

- (3) 防除上の留意点

- ① 県防除基準に従って薬剤を選択し散布する。
- ② 葉が果実に接していると、接触部の果面が食害されることがあるため、早めに摘葉を行う。

7 キンモンホソガ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

- (2) 予報の根拠

- ① 9月上旬までの巡回調査では、幼虫による寄生葉が散見されるほ場が多かった。

- ② フェロモントラップの誘殺数が平年より多く推移している。

- (3) 防除上の留意点

- ① 県防除基準に従って薬剤を選択し散布する。

8 スモモヒメシンクイ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

- (2) 予報の根拠

- ① フェロモントラップの誘殺数は平年より多く推移している。

- (3) 防除上の留意点

- ① 県防除基準に基づき登録のある薬剤を選択し、使用時期等に十分注意して散布する。

VI なし

1 黒斑病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並

- (2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では、8月の発生はほとんどみられず平年並の発生であった。

- ② 南信農業試験場における発病調査では、平年に比べやや遅い発生であった。

- (3) 防除上の留意点

- ① 県防除基準に従って適切に防除する。

2 うどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並

- (2) 予報の根拠

- ① 8月下旬までの発生は平年並であった。

- (3) 防除上の留意点

- ① 県防除基準に従って適切に防除する。

3 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

- (2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では寄生はみられず、平年並の発生だった。

- (3) 防除上の留意点

- ① 県防除基準に従って適切に防除する。

4 シンクイムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや遅

- (2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では、ほぼ寄生がみられていない。

- ② 気象予報(+) 向こう1ヶ月の気象では、気温は高めと予想されている。

- (3) 防除上の留意点

- ① 県防除基準に従って適切に防除する。特に、ナシヒメシンクイは9月の発生量が多いので注意する。有袋栽培でも被害を受けることがあるので、発生の多い園地では散布間隔をあげすぎないように防除する。

5 クワコナカイガラムシ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

- (2) 予報の根拠

- ① 南信農業試験場のフェロモントラップ調査によると、誘殺数は平均と比べると多く、発生時期は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ① 発生の目立つ園では9月中にバンド誘殺を行う。

6 カメムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 南信農業試験場のフェロモントラップ調査では、断続的に捕獲されており周辺地域の子察でも誘殺されている。

- ② 巡回調査では、果実被害はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ① 園地内に飛来がみられたら県防除基準に従って防除する。

VII もも

1 せん孔細菌病

(1) 予報の内容 発生量：**多い**

(2) 予報の根拠

- ① 9月上旬までの巡回調査では、被害葉は平年より多くみられた。

- ② 気象要因(+) 向こう1ヶ月の気象では、降水量は平年並に多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 発生園では県防除基準の基づき秋期防除を実施する。

2 コスカシバ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① フェロモントラップ調査では、成虫の誘殺量はほぼ平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ① 成虫の発生盛期は9月上中旬である。

- ② 発生園では県防除基準に基づき、収穫後または落葉後速やかに殺虫剤を散布する。

VIII ぶどう

1 べと病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多**

(2) 予報の根拠

- ① 8月下旬以降の巡回調査で、新梢先端葉や副梢葉などを中心に発生が平年より多くみられた。

- ② 気象要因(+) 向こう1ヶ月の気象では、降水量は平年並に多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 発生が多い場合、県防除基準に基づき収穫後に殺菌剤を散布し葉を保護する。

IX 野菜

1 レタス菌核病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では中信地域の一部ほ場でみられた。

(3) 防除上の留意点

- ① 結球初期の殺菌剤散布が重要である。

- ② 県防除基準に従って薬剤を選択して散布する。

- ③ 常発地や高冷地では、曇雨天が続いた場合に多発しやすいので、その場合は防除回数を増やす。

2 レタス灰色かび病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では発生はみられなかった。

- ② 発病の適温は低めである。

(3) 防除上の留意点

- ① 結球初期の殺菌剤散布が重要である。

- ② 県防除基準に従って薬剤を選択して散布する。

3 レタスすそ枯病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では中信地域の一部ほ場でみられた。

(3) 防除上の留意点

- ① 高畦にして、排水をよくする。

- ② 結球初期の殺菌剤散布が重要である。

- ③ 県防除基準に従って薬剤を選択して散布する。

4 レタス斑点細菌病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では東信及び中信地域の一部ほ場でみられた。

(3) 防除上の留意点

- ① 降雨後は、速やかに防除を実施する。

- ② 常発地では耐病性品種を栽培する。

- ③ 害虫による食害は本病の発生を助長するので、害虫防除に努める。

- ④ 発病を認めたら直ちに、防除基準により薬剤を選択して防除を行う。

5 レタス腐敗病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では東信地域の一部ほ場でみられた。

(3) 防除上の留意点

- ① 常発地では耐病性品種を栽培し、予防散布する。
- ② 降雨後は、速やかに防除を実施する。

6 レタス軟腐病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では東信地域の一部ほ場でみられた。
 - ② 降雨により発生が多くなる。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 毎年多発するほ場では予防を徹底し、排水対策や耕種的防除に努める。
 - ② 降雨後は、速やかに防除を実施する。

7 レタスべと病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では発生はみられなかった。
 - ② 例年、秋雨時に発病がみられる。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 耐病性品種を用いる。
 - ② 定植後から県防除基準により薬剤を選択して防除を行う。

8 アブラナ科野菜軟腐病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では、東信及び中信地域のはくさいの一部でみられた。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 毎年多発するほ場では、予防を徹底し、排水対策や耕種的防除に努める。
 - ② 降雨後は、速やかに防除を実施する。

9 アブラナ科野菜べと病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では発生はみられなかった。
 - ② 低温多湿条件下で発生しやすい。
- (3) 防除上の留意点
 - ① ハクサイでは耐病性品種を用いる。
 - ② 発病を認めたら直ちに、県防除基準により薬剤を選択して防除を行う。

10 アブラナ科野菜黒斑細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では中信地域のキャベツ及び東信のはくさいでみられた。
 - ② 8月以降、天候の不順が続いている。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 毎年発生するほ場では、定植直後からの予防防除を重視する。
 - ② 発病を認めたら直ちに、県防除基準により薬剤を選択して防除を行う。

11 ハクサイ白斑病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 防除基準に従って薬剤を選択して散布する。
 - ② 酸性土壌や肥料切れは発生を助長するので、酸度矯正や適正施肥に努める。

12 ハクサイ黒斑病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査ではみられなかったが、調査ほ周辺では、東信のはくさいでみられた。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 白斑病同様、肥料切れは発生を助長するので、適正施肥に努める。
 - ② 常発地では、県防除基準に従って薬剤を選択し、結球初期より予防散布する。

13 ハクサイ黄化病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ① 本病は秋はくさいで発生が多い。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 連作を避ける。
 - ② 結球期になって急に病勢が進むので、発病したら収穫を早める。

14 ハクサイモザイク病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 秋はくさいで発生が増加する。発病株は早めに除去する。
 - ② 害虫防除がチョウ目害虫に片寄ると多発することがあるので、アブラムシ類にも効果のある剤をローテーション散布の中に組み入れる。

15 キャベツ菌核病・株腐病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では発生はみられなかった。
 - ② 低温多湿条件下で発生しやすい。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 被害株はできるだけ早く処分する。特に菌核形成前にはほ場から除去する。

16 アスパラガス茎枯病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では各地で発生がみられた。
 - ② 例年、秋雨時に進展がみられる。
- (3) 防除上の留意点

- ① 発病茎、枯死茎は見つけ次第除去し、焼却等により処分する。
- ② 過繁茂にせず、通風を良くする。
- ③ 株が弱ると発病しやすくなるので、施肥管理等により株の養成に努める。

17 アスパラガス斑点病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では各地で発生がみられた。
 - ② 例年、秋雨時に病気の進展がみられる。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 通風をよくするため立茎数を制限し、徒長倒伏しないよう上部を刈り取る。
 - ② 定期的な防除を実施し、散布間隔が大きく開かないようにする。また、薬剤はローテーションを組んで散布する。
 - ③ 県防除基準に従って薬剤を選択して散布する。

18 コナガ（アブラナ科野菜）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① フェロモントラップによる調査では、一部地域で誘殺数が多いところがあった。
 - ② 巡回調査では、はくさい・キャベツ・ブロッコリー等のほ場でみられた。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 異なる系統の薬剤をローテーション使用し、体系防除を実施する。
 - ② 薬剤散布をする場合は、散布ムラのないように、葉裏まで十分薬液がかかるようにする。
 - ③ 県防除基準に従って薬剤を選択して散布する。

19 ウワバ類（アブラナ科野菜）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では、一部地域で発生がみられた。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 若齢幼虫は葉裏に寄生しているので、葉裏にも薬液がかかるよう散布する。

20 ハモグリバエ類（野菜・花き）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では、中农信地区のねぎの一部に発生の多いほ場がみられた。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 被害葉は見つけ次第摘葉し、ほ場から持ち出して処分する。
 - ② 施設栽培では、施設開口部に防虫ネットを設置して侵入を防ぐ。
 - ③ 早期発見に努め、密度の低いうちに薬剤防除する。
 - ④ 成虫は黄色に誘引されるので、黄色粘着板を用いたモニタリングも有効である。
 - ⑤ 県防除基準に従って薬剤を選択して散布する。

21 オオタバコガ（野菜・花き）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠

- ① 9月上旬までの各地のフェロモントラップによる調査では、誘殺数は平年並のところが多かった。

(3) 防除上の留意点

- ① 施設栽培では、開口部を寒冷紗等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ② 幼虫の早期発見に努め、若齢幼虫を対象に防除を徹底する。
- ③ レタスの場合、結球前の防除が重要であるので、結球始期を中心に1週間間隔で薬剤を2～3回散布する。
- ④ 果菜類等で産卵を認めたら、その数日～1週間後くらいが防除適期である。
- ⑤ 県防除基準に従って薬剤を選択して散布する。
- ⑥ 薬剤抵抗性発達回避のため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

22 アブラムシ類（野菜・花き）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では一部のアスパラガスで発生がみられた。
- (3) 防除上の留意点

- ① CMV等のウイルスを媒介するので、早期防除を心がける。特に果菜類では、良く観察し、アブラムシのコロニーを見つけたら速やかに防除を実施する。
- ② 県防除基準に従って薬剤を選択して散布する。
- ③ 施設栽培では天敵の利用も考慮する。

23 アザミウマ類（野菜・花き）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では一部地域のねぎ及びアスパラガスで発生が目立つところがあった。
- (3) 防除上の留意点

- ① ウイルスを媒介するので、早期発見に努め、被害や成虫を確認したら直ちに防除を実施する。
- ② 県防除基準に従って薬剤を選択して散布する。
- ③ 害虫の寄生している花や葉裏に、薬剤が十分かかるよう散布する。
- ④ 異なる系統の薬剤をローテーション使用し、散布後は効果を確認する。
- ⑤ 施設栽培では天敵農薬の利用も有効である。

24 ハダニ類（野菜・花き）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では一部のアスパラガスで発生が目立つところがあった。
- (3) 防除上の留意点

- ① 被害を早期に発見する。薬剤による防除は、ハダニ類の寄生している葉裏に薬液が十分かかるよう散布する。
- ② 薬剤散布後は効果を確認し、効果の低い剤、及び同一系統剤の使用を避ける。
- ③ 施設では天敵農薬の利用も有効である。